



まなこ

子どもを取り巻く性的搾取 スマホに潜む危険性



裏アカ

A collage of Japanese text on a blue background featuring a white floral pattern. The text includes:

手軽なバイト 泊め男
JKビジネス インスタ映え
リベンジジポルノ
パパ活・ママ活
うちの子は大丈夫



嫌なことにはNOと言えるように—自己責任論を始めない…P.2

今も大事だけど、未来も大事だよ……………P 4

寝た子は起きて 正しい知識を P 6

子どもを取り巻く性的搾取 スマホに潜む危険性

近年、スマートフォンの普及により、アプリやSNSをきっかけに性的被害にあう子どもが増加しています。性的の話がタブー視されやすい日本において、性的な搾取から子どもたちを守るにはどうすればよいのか、考えてみませんか。

嫌なことにはN〇と言えるように—自己責任論を始めない

子どもたちに広がるスマホを介した性的被害の背景や、それに対して大人たちができるることを、長年子どもの権利を守る活動をされている甲斐田万智子さんに伺いました。

スマホを介した性的被害の現状と広がりの背景について

スマホの普及でインスタグラムやツイッターなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が本当に身近になり、知らない相手と簡単に仲良くなれるようになりました。ネット上で知り合い、そのうち疑似恋愛となり、その相手から「好きだつたら裸の写真を送つてほしい」と言わせ送ってしまったり、自分と同世代の、同性の友達と話しているつもりで実際に会つてみたり、実はかなり年上の男性で、無理やり性的なことをされたりということが後を絶ちません。

2001年に横浜で「第2回児童の商業的性的搾取に反対する世界会議」が開催されたあたりから、ネットを介した子どもの性的搾取の問題が出てきました。しかし、日本ではネット上の子どもの性的搾取の問題への認識が不十分だったため、対策が後回しになつ

SNSの世界でどれだけ性的搾取が行われているかを大人が知らないまま、子どもたちがどんどんトラブルに巻き込まれてしまっています。親がふだんから、子どもが被害にあう可能性があると意識して性的なことも話していれば、もしトラブルになつたときにも子どもから話せるようになります。しかし、親が恥ずかしがって話題にしないでいると、子どもからも話しにくくなり、最初の段階で言い出せないために、いつのまにかどんどんひどい状況になってしまいます。

例えばJKビジネスの場合、最初はお散歩だけだからと気軽に始めたバイトのはずが言葉巧みに促され、「ちょっとぐらいだつたら」「お金がもらえるんだつたらやつてみよう」と徐々にハーダルが低くなつていきます。同じようにSNSでも、興味本位で始め、いつのまにか危険な目にあつてしまふケースが多くあります。それは、家庭だけでなく

学校でも、「私の体は私のもの」という人権に基づいた性教育がなされていないことが大きな原因です。まずは自分の体のことを大切にし、他人が勝手に搾取してはいけないんだという、人権に基づいた性教育が大事です。

それから、子どもが日ごろから目にする漫画やゲームの世界で、大人が子どもを性的な対象としているものがあまりに多いことも問題です。そのような画像は子どもに対する人権侵害であり、他の国ではあり得ない状況なのですが、それらに子どもが簡単にアクセスできてしまうことも、この問題が大きくなる原因だと思います。

被害を広げないために 大事なこと

性教育と同じくらいの子どもの権利教育も重要です。子どもの権利条約が採択され今年で30年になるのに、いまだに子どもの権利が大切にされていない日本の状況は本当に深刻だと思います。

甲斐田万智子さん
かいだ まちこ
文京学院大学教授、認定NPO法人国際子ども権利センター代表理事。日本ユニセフ協会勤務後、アジア各国に滞在。子どもの人身売買、性的搾取、児童労働防止活動に携わる。共編著『小さな民のグローバル学・共生の思想と実践を求めて』(きょうせい)、共著『SDGsと開発教育・持続可能な開発目標のための学び』(学文社)など



日本だと“和”や協調性が求められるので、ひとりだけ違う意見を言つてはいけないので、そのうちは「N.O」という言葉で、親や学校の先生は、子どもにも権利があり、一人ひとりが大切に思つていいということを、日ごろから伝えてほしいです。そして、自分の気持ちを伝える子どもに対しては嫌な顔をしないで受け入れてほしいです。何か嫌なことがあつたときにN.Oと言えることは、子どもを被害から守る上でとても重要なことです。

それとジェンダーの問題もありますね。本来は男女平等で女性も男性と同じように自己決定権があるんですが、女性が男性に従わなくてはいけないようなジェンダー不平等の意識がまだ残っています。それに加え、女性の体や子どもを性的な対象物として表現するメディアがあふれていることで、子どもたちは「大人は、女性や子どもたちをそういう風に見ているんだ」と思つてしまします。自分は大切にされるべき存在であることを知り、より良い社会を作ることに子どもも参加していくば、「これおかしいよね」「おかしいから変えていこう」と行動を起こせると思つのですが、子どもの権利が軽んじられてしまつて、そのため、子ども自身が現状を甘んじて受け入れてしまうことがあります。権利が大事にされないといふのは、子どもが活躍できる場がないということを意味します。

JJKビジネスにおいても、「JJKお散歩」などとオブリートに包まれている言葉の裏に、実は足を踏み入れてしまつて誰でも危険な目にあつ可能性があることを、子どもたちに知らせていく必要があります。性的なことが関わると親も教員も教えたがらないです、やはり日ごろからそういうことも恥ずかしがらずに話し合うことが大事です。本来の性行動は、愛し合う人たちが相手を大切に思つてしまいます。自分は大切にされるべき存在であることを知り、より良い社会を作ることに子どもも参加していくば、「これおかしいよね」「おかしいから変えていこう」と行動を起こせると思つのですが、子どもの権利が軽んじられてしまつて、そのため、子ども自身が現状を甘んじて受け入れてしまうことがあります。権利が大事にされないといふのは、子どもが活躍できる場がないということを意味します。

そうすると子どもは「どうせ自分なんて」と思つてしまい、自己肯定感が低くなる。どちらかといふと、みんなと同じで違う意見を言わずに従つ子供もが素直でいい子だとそれがちですが、「意見を言つていいんだよ、YESもNOも言つていいんだよ」ともつと伝えていくことで、子ども自身が学校のクラス運営をしたり校則を作つたりすることにつながり、学校の外で良い社会を作つていくことにもなります。そういうふうに教育も社会も人権ベースに変わつていかなければと思います。

大人たち、社会の関わり方

JJKビジネスにおいても、「JJKお散歩」などとオブリートに包まれている言葉の裏に、実は足を踏み入れてしまつて誰でも危険な目にあつ可能性があることを、子どもたちに知らせていく必要があります。性的なことが関わると親も教員も教えたがらないです、やはり日ごろからからそういうことも恥ずかしがらずに話し合うことが大事です。本来の性行動は、愛し合う人たちが相手を大切に思つてしまつて、自分は大切にされるべき存在であることを知り、より良い社会を作ることに子どもも参加していくば、「これおかしいよね」「おかしいから変えていこう」と行動を起こせると思つのですが、子どもの権利が軽んじられてしまつて、そのため、子ども自身が現状を甘んじて受け入れてしまうことがあります。権利が大事にされないといふのは、子どもが活躍できる場がないということを意味します。

もしも被害にあつてしまつたら、相談を受けたら

もし被害にあつてしまつたら、できるだけ早く信頼できる人に話し、専門的なところに相談するのが一番です。例えば自画撮り被害も犯罪なので、警察に通報すべきです。大人は、被害にあつたと相談されたら、「話してくれてありがとうございます。あなたは悪くないからね」とまず言つてあげてください。「あなたが気をつけなかつたからいけない」とは決して言わないでください。被害にあつたとき、責められるべきは加害者なのほうなのに、日本の場合は、気をつけになかつた被害者のほうが悪いという声がすごく大きいです。それは社会全体でえていかなければなりません。いかに被害者の自己責任論、子どもの自己責任論を変えていくか、一人ひとりが全力を尽くすべきでしよう。

対策が遅れている日本ですが、ようやくAV出演強要問題について政府が取り組みを始めたり、JJKビジネスに関する都条例ができたりしています。また最近では、都や警察庁が、自画撮り被害防止のための啓発ビデオ「ちょっと待つて、あの日の自分」やマ

ンガ「STOP! 自画撮り!」をホームページに掲載しています。さらに愛知県警察では、自画撮りに関する高校生向けのシンポジウムを開催し、約200人の高校生が参加しています。このように、法律を作つたり取り締まりを強化することは、子どもを性的搾取するのは許せないことだと、社会全体で子どもに示していこうことにつながります。「気をつけていなかつた私が悪い」とつい自分で責めてしまう被害児童が多くいるのですが、法律や処罰が厳しくなることで「悪いのは私じゃなかつたんだ」「悪いのは加害者なんだ」と伝わります。

自己責任論がある限り、被害にあつた子どもは声を出せないで泣き寝入りし、もつと心の傷が深くなつてしまします。被害にあつても、すぐに十分なケアが受けられるといふ心の傷も回復していくのですが、誰にも言えず一人で抱えてしまうと、どんどんひどくなり、大人になつてからも心身の不調を抱えることになります。絶対に被害者を責めず、自己責任論の考え方をやめることがとても重要です。あくまでも悪いのは加害者であつて、あなたは悪くないというメッセージを日本中で伝えていかなくてはなりません。

*1 児童の商業的性的撲取に反対する世界会議
買春などの性的虐待から子どもを守ることを目的に、各国民政府代
表や国際機関・民間活動団体(NGO)らが参加する世界会議
1996年スウェーデンのストックホルムで第1回世界会議開催
*2 子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)
前文と本文54条からなる、子どもの基本的人権を国際的に保護するために定められた条約。1989年の国連総会で採択され、1990年発効。日本は1994年に批准
*3 自画撮り被害
だまされたり、脅されたりして18歳未満の子供が
自分の裸体等を撮影させられたり、メール等で送らざれる被害

[取材 太久保力/取材・文 若林優香]

子どもを取り巻く性的搾取 スマートに潜む危険性

今も大事だけど、 未来も大事だよ

帰る場所の無い10代から20代の少女を「漂流少女」と名付け、さまざま形で支援を行っている橋ジュンさんに、JKビジネスの実態とその背景について伺いました。

JKビジネスの実態と現状

政府もJKビジネスが危険であると訴えています、「JKビジネス条例」もできて、大人にはその危険性が伝わってきましたが、女の子たちにはまだ届いていないと思っています。

先日も秋葉原をパトロールしたところ、コスプレした女の子たちが路上で誘導していました。店に着いて、その女の子が客から指名を受けると初めて仕事をしたと認められる。ソフト風俗ともよばれていて、普通の女の子が働くのにハードルが低い一方、ここに入り口にさらにティープな仕事（ハードな風俗）に足を踏み入れてしまうこともあります。昼間から高校生らしき女の子たちが笑顔で客引きをする姿は、異様な感じがしました。

カウンター越しに話をするだけの店もあれば、リフレや泡洗体など下着

のような姿で体を密着させるサービスをする店もあります。中には裏風俗と呼ばれているものもあり、アパートの一室に客を呼ぶ、軟禁状態で過激で危険なサービスをさせられます。

かつて、大阪の飛田新地という風俗街を視察しました。そこでは、年配の女性が呼び込みをし、接客をするのは店の横でスポットライトを浴びて座っている若い女の子です。表向きは料亭ですが、2階の一間に布団が敷いてあります。

店に入る前に「この子とこういうことができる」と分かる状況でした。路上で女の子たちがチラシを配る秋葉原の光景は、私からすれば飛田新地と重なって見えました。

JKビジネスに入っていく理由、社会的背景

私たちの活動のひとつに繁華街のパ

橋ジュンさん
NPO法人BONDプロジェクト代表、ルボライター。フリー・ペーパー『VOICES MAGAZINE』発行。著書に『最下層女子高生 無関心社会の罪』(小學館新書)など



つまり安心できる居場所がないということなのです。危険なJKビジネスは、人身売買と同じなのではないか?とも考えています。それでもその子たちにとつては、ある意味セーフティーネットになっているという現状があります。私たちは大人はその子たちを責めるのではなく、社会が無関心で、彼女たちのSOSに気付かなかつた結果であることを知らなければなりません。

さらに、もうひとつの理由は自己肯定感の低さです。JKやっこ(女子中生)の今しか価値がないと思い、制服を着ていなければ、ちやほやされないし、大人たちから必要とされない、お金を払ってもらえないと、変に思い込んでいます。女性は若ければ若いほど価値があるという一部の社会が生み出した幻想に、女の子たちは乗つかつてしまつているのがもれません。

裕福な家庭の子ばかりの私立校で、アルバイトは禁止されているけれど、友達と付き合っていくためにお金が必要で、「パパ活」やJKビジネスならいいやと思ったという子もいました。その子は、シングルマザーの家庭で、大変な思いをして働いているお母さんに、遊びにいくお金が欲しいとは言えなかったそうです。私はそういう行動の背景や本音を聞いたことがあります。

近頃では、JKビジネスで働く大学生が増えました。大学生も親に学費を頼れないといった問題を抱えていましたし、高校生と年が近く制服も似合つからです。

JKビジネスの気軽さと危うさ

店側は「すぐにできる簡単な仕事」「友達と一緒にできるよ」と、気軽にみえる入り口を用意しています。短時間の高給バイト・高校生可とネットで見つかり、友達から聞いたりして始めた子もいます。

「見学クラブ」というお店は、客が女の子をデッサンするというコンセプトで、法律に背いていないとのアピールしていますが、中では結構、ダークなことをさせています。マジックミラーの向こうで女の子が客のリクエストで卑猥なポーズをします。触れられない、撮られないから安全と店は訴えますが、その行為が安全と言えますか？他の女の子たちは、お菓子を食べたり携帯をいじったりしながら、指名された女の子がどのようなポーズをしているか見える場所で待機しています。「ここまでしないと指名されないと競争心をあおられ、サービスが過激

になっていくのです。ずるいのは大人たちです。

スマホを介した性的被害について

スマホが普及し、全国の誰とでもいつでもつながるようになってしましました。スマホを介した性的被害に関して、統計では年々被害児童数が増えていますが、それは氷山の一角で、埋もれている数はもっと多いはずです。被害にあったことを自覚していない子もいるし、絶対に知られたくないと隠している子もいます。

居場所のない女の子がSNSでつぶやいたとき、すぐに反応してくれるような男性もいます。困っていることに対する協力するふりを装って近づくのです。

最悪の結果が9人の被害者を出してしまった座間の事件です。被害者はBONDに来る相談者とともに近いと印象を受けました。私たちは電話・メール・SNSでの相談窓口を設けていますが、やりとりをして実際に面談するところまではハードルが高く苦労しています。ところがあの事件の被疑者は、被害者と直接会うままでがとても速かつた。それだけ巧妙だったのだと思います。

事件後、これまで相談にきた1000人にメールで呼びかけ、アンケート調査をしました。100人から回答を得ましたが、SNSのアカウントを使い分けているという女の子が6割以上いて、やりとりをした人と実際に会ったことがありました。帰る場所のな

に送つたりしてしまったのかも。彼氏に嫌われると思って断れなくて、それがリベンジポルノの被害につながっているのですが、彼氏と別れた後どうなるのか。きれいごとでない本当の怖い話も伝えるべきです。

もっと自分を大切にしてほしい。そのためには早い時期からのリテラシー教育・性教育が何より重要です。

NPO法人BONDプロジェクト

<http://bondproject.jp/>
10代20代の生きづらさを抱える女の子を支援するため2009年に設立。

メール・電話・SNS・面談での相談対応や繁華街での声かけ活動を通じて、少女たちの声を聴き続けている。専門機関とも連携し、必要に応じて同行支援や緊急時の一時的な保護を実施している。

周りの大人ができること

保護者や先生よりも子どもの方がよほどスマホの使い方に詳しくて、アカウントを使い分け、親に大丈夫と信じさせています。「うちの子は大丈夫」というのは大間違いでし、何かあっても親には相談しないでしよう。だからこそ、きちんととした相談先がいろいろあることをふだんから伝えていくべきです。私たちの活動では、一人で抱えずに相談して、と言い続けています。死にたいと言っている子たちの相談も受けていますが、つながり続けている子たちは、あがきながらも生きています。

女の子たちと出会って、話せるようになつても、すぐにそういう店を辞めることは限りません。でも関わり続け話し合いを重ねると、自分から辞めようと思つてくれます。

女の子たちには、「今も大事だけど、未来も大事だよ」と伝えたいです。

【取材 矢後麻美／取材・文 藤田和香子】

* JKビジネス条例・特定異性接客営業等の規制に関する条例
いわゆる「JKビジネス等」について公安委員会への届出義務や営業者の禁止行為等を定めるなど必要な規制を行い、青少年（18歳未満の者の健全な育成を阻害する行為及び青少年を被害者とする犯罪を防止することを目的として、東京都で制定。平成29年7月1日施行）

子どもを取り巻く性的搾取 スマホに潜む危険性

独自のプログラムやテキストを作るなど、性教育に積極的に取り組み続ける吉祥女子中学・高等学校の小田先生から、同校での実践の意義や家庭でできることなどについて伺いました。

本校が性教育委員会を立ち上げたのは、50年ほど前（1968年）のことになります。性教育は純潔教育を中心だつた当時に、北欧諸国への視察なども行い、道徳で教えるだけでなく、科学的事実に基づき、人権にしつかり根ざした教育の実践を掲げました。

本校では、性教育を社会科・理科・保健体育科・家庭科の4教科の中に位置づけています。性教育委員会をこの4教科の教員で構成し、連携しながら中高の6年間を通じた独自の指導計画を組んでいます。例えば中1では、理科で「生物の生殖」という科学的現象の一側面として植物の生態を、保健では人間のからだの発達を学びます。また、家族やジエンダー論など社会科と家庭科両方で扱う内容もありますが、違う先生から聞くことで「異なる捉え方があるんだ」と学べる良さがあると考えています。保健体育は、最も多くの時間割いており、独自のテキストも作成しています。性教育の集大成が高1の個人発表。興味をもったテーマを深く調べ、1人15分程度のプレゼンテーションと質疑応答を行います。おしつ



おだひろみ
小田洋美さん

吉祥女子中学・高等学校
生徒指導部長・保健体育科教諭

けの知識ではなく自ら考え、他者の意見を聞いたり意見を述べ合うことを通じて、自己決定能力と批判力のある自立性を身につけることができます。生徒たちは、本校の性教育の意義を、卒業してからさらに実感するそうです。友人に教えてあげたり、自分の行動も慎重に選択しているようで、「先生、勉強していくなかつたら大変なことになつてしまひたよ」と言つてくれます。

時代の変化にも対応すべく、努力もしています。最近では、スマホやSNSの登場が大きいですが、中1すぐの授業でSNSの使い方を扱い、保護者にも外部

保護者の皆さんにも、本校の性教育について前向きに捉えていただいています。「学校」でやつてもらつて本当にありがたい」というお声はよくいただいており、「やるな」というご意見は今まで一度もありません。娘から授業の内容について問い合わせする父親もいるようです。

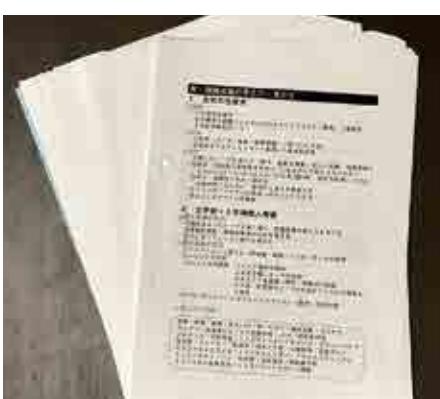
からゲストを呼んでお伝えしています。本校では、全教室に無線LANが整備され、授業で使うため高1からはスマホとiPadの持ち込み・使用を許可しています。ただし、SNSは使わないルールとなつており、フィルターはかけてあります。しかし、あまり規制ばかりを先行させます。それよりは正しい使い方を教えるというスタンスです。スマホを介した性犯罪のことは伝えていますが、性教育の中でもう取り組むか、今後さらに研究していくたいと考えています。

家庭での取り組みで大切なのは、性教育というより、日々の普通のコミュニケーション。その際、些細なことでいいのでほめて、自己肯定感と信頼関係を育

たら犯罪に巻き込まれる、危険だと判断できる知識を子ども自身が持つていいことがとても大切です。

また、親世代が性についてネガティブだと感じることもあります。子どもは「低用量ピル」を前向きに捉えていいのに、親が「危ない」「処方のために産婦人科に行くのは、妊娠と間違われるからやめなさい」と言つたり、月経を嫌なものとして扱つたり。大人の性教育も大切ですね。

よく「寝た子を起こすな」という意見が出てきます。文科省の現在の学習指導要領では、妊娠の経過（性交）については扱っていません。しかし、知識がないほうが危険です。本校の生徒を見ても、人権意識に基づいた正しい知識を持つと、自分と相手を大切にし、慎重に行動することは明らか。また、女子だってハラスメントの加害者にもなり得ます。私は「寝た子はどんどん起こして正しい知識を」と保護者にも言っています。



独自に作成した保健体育のテキスト。高1の保健体育では全てを性教育に充て、ワークやディスカッションを多数取り入れる工夫をしている。

TOPICs

●武藏野市第四次男女平等推進計画(案)が答申されました

武藏野市男女平等推進審議会が、市の男女平等推進施策の今後の方向性を示す「武藏野市第四次男女平等推進計画」(案)を策定し、同計画がまとまりました。3月1日、市長に答申しました。同計画(案)では、目指す将来像として、「全ての人が、互いに人権を尊重し、性別等に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮して、生涯にわたり、いきいきとくらせるまちを目指します」と掲げています。



3月1日、市長に答申しました

●平成31年度男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や印刷機の利用、補助金、団体交流会などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

相談窓口のご案内

相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校のことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】面接・電話による相談
【相談時間】(1回50分／予約制)

第1土曜日	①13:00～②14:00～③15:00～
第2金曜日	①18:00～②19:00～③20:00～
第4火曜日	①9:00～②10:00～③11:00～

◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法律的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】面接による相談
【相談時間】(1回30分／予約制)

第1土曜日 ①9:30～②10:10～③10:50～④11:30～

【申込み方法】「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。
【予約電話番号】0422-37-3410(木曜・年末年始を除く午前9時～午後10時)

活動レポート

人権週間事業「映画『カラソコエの花』上映とカフェトーク」

日時>平成30年12月9日(日) 13:00～14:30

会場>市民会館集会室

ファシリテーター>原ミナ汰さん(NPO法人共生ネット代表理事)

「うちのクラスにLGBTの人がいるんじゃないかな?」ある日突然行われた授業をきっかけに高校生の間に疑惑が生じる—思春期の生徒たちの心の動きを描いた映画『カラソコエの花』。同作品鑑賞後に、映画の感想や日々から感じていることなどを原ミナ汰さんと参加者で話し合いました。たいへん活発に意見が交換される貴重な場となりました。



ファシリテーターの原ミナ汰さん

にじいろ電話相談(臨時)

日時>平成30年12月9日(日)、11日(火) 16:00～20:00

家族や友人との関係、職場や学校のこと、性的指向や性自認に関する悩みなど、ご本人・ご家族や支援者の方などからの電話相談を行いました。

取材と書くことのレッスン～市民の目で見て、聞いて、書いて～

日時>平成31年2月1、8、15、22日(金) 10:00～12:00

会場>男女平等推進センター会議室

講師>中村泰子さん(雑誌「くらしと教育をつなぐWe」編集長)

毎年恒例の本講座は、男女共同参画の視点も交えつつ、わかりやすい文章の書き方からインタビュー・取材・編集のコツまで、幅広い内容を講義いただきました。参加者同士で取材をし、その内容をまとめたインタビュー記事を講師に添削してもらうことで、文章力向上のヒントも学びました。

そのほかにも、以下の講座を開催しました。

●シングルマザー座談会 vol.2

●子育ても自分の生き方も!～ママのためのライフキャリア講座～

BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から貸し出しています!

『女の子が生きていくときには覚えていてほしいこと』

西原理恵子著(株式会社KADOKAWA)

自分の幸せを人任せにしないように自分で稼げるようになる、いい人にならなくていい、自分の人格を否定するようなパートナーからは逃げていいくなど、長い人生、転んでも腐らずに立ち上がる方法がつづられている。自らの人生を顧みながら、反抗期真っただ中の娘に手を焼いている様子や、これから世の中に出ていく女の子に向けて、西原ワールド満載に書かれた本である。

[文 島崎理恵]



武藏野市立男女平等推進センター ヒューマンあいご利用案内

〒180-0022 武藏野市境2-3-7 市民会館1階
電話: 0422-37-3410 FAX: 0422-38-6239

開館時間: 午前9時～午後10時(木曜・年末年始 休館)
Eメール: danjo@city.musashino.lg.jp

まなこ
『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点=「まなこ」で見ていこう！という思いで名付けられました。
1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

団体活動補助金事業を紹介します

私達は社会にどう貢献して生きるか 一参政権のなかった時代に女性たちが行ってきた 災害支援活動から現代までを見通す

日 時：12月8日（土）10:00～12:00
会 場：男女平等推進センター会議室
講 師：平田京子さん
(日本女子大学家政学部住居学科教授)
参加者：26名
主 催：桜楓会武蔵野支部
共 催：むさしの男女平等推進市民協議会

まず、日本女子大学とその同窓会組織である桜楓会が取り組んだ、サーパントリーダーシップ（高い志や社会への奉仕の心をもって大きなミッションの実現に邁進するフォロワーに対してリーダーが尽くすこと）に基づく災害支援活動を紹介しました。その後、講師が特別に作成した、避難所生活におけるリーダーのあり方を示す『避難所のみんなの居場所を作る』の武蔵野版をもとに、いざという時の自助共助など具体的な話を伺いました。男女の役割分担意識が強い日本において、女性のリーダーはどうすれば手頃できるかを考えさせられる内容でした。



東日本大震災における災害支援シュシュプロジェクト



11月21日(水)男女平等推進センター会議室にて

家事は「命の再生産」、癒しの営みであると読み、すべての土台であると思つた。
共働き家庭が多くなり、学校行事、保護者会などの活動は土曜日に行われるようになつてきただが、子どものための活動が、家族との時間を削つてしまふのではないかと感じつゝ。毎日半休取ることまでいかず、何時間か抜け戻ることを言えぬもんか働き方が今後でもよいになれば良いと思つた。

家事は家庭内のこと、見えないことにされてしまいがちで、自分も見えて（考へて）すらいなかつた。家事ハラを受けていたのかもしれないが感じていなかつた。男性は子供もの誕生、妻の復職・病気がきっかけで家事の大変さに気付くのだとわかつた。女性側も、尽くすことに喜びを感じて家事をやりすぎることもあるが、自己犠牲を美化するよりは良くないと思つた。

座談会の記事を読んで、家事について深く考えて、いる男性が多いと思った。自分は専業主婦なので、夫が稼いできたお金で自分のものを購入することが、今まで少額でもめられた。家事労働の対価として購入してもよいのではないかと思つた。
家事ハラを定義された先生の記事を読むことができたのは貴重な機会だった。家事労働は生命線であると感じた。熟年離婚後の男性、妻を先に亡くした夫の悲哀はよく知られている。家事について興味を持つ意味で座談会形式はよかつた。

その後、今後取り上げてほしいテーマについて活発な意見をいたしました。

[文 島崎理恵]

スマホの使い方について語りたい



「まなこ」サポーターの 200 文句ハナメ

スマホを介した 性別トライブルについて

井原愛美 ●境

あだまだ先の話だが、我が家の中の若い子どもたちもいすれ持つことになるであろうスマホ。とぞいき私のスマホで写真撮影やゲームをしているが、操作を覚える早さに驚く。小さな頃からスマホに触れていると、スマホに対し警戒心が薄くなると最近知り、とても怖くなつた。将来スマホを持たせる際は、フィルターに頼るだけでなく、そこから得られる情報の付き合いで、方や、あおさまな危険性をきちんと話し合えるよう、勉強しておかなくてはと思つ。

スマホは便利だ。写真や動画を撮影し、すぐその場で誰かへ送信することができる。しかも最近は写真補正のアプリも発達し、時には实物の被写体と全く違う人間に見える画像すらつくりあげることができる。またSNSの発達によつて、自分から容易に個人情報を発信できるようになった。結局は、どんなに便利なもののが発達しても、その使い手次第で凶悪な武器とも、ありがたい文明の利器になり得るといつこい心せねばならない。

大人の責任

三牧良子 ●桜堤

スマホを介して性犯罪などの被害にあつ未成年の子どもの数が年々増えているが、それは子どものスマホ利用者が増えていることつながつてゐる。ますます利用者は増えていくと思われるが、それに伴つて犯罪被害が増え続ける、ということでおいのか。子どもを犯罪に巻き込む大人がいちばん悪いが、子どもを守りたい大人もスマホの便利な面に慣れ、危険な面を軽く見ていいいか。無防備な子どもにスマホを与えることの重大さを自覺したい。

* STAFF *

サポーター 井原 愛美 江波戸 美樹子 小山 奈保子 星田 安津子
待鳥 葉月 三枚 良子
取材・編集 大久保 力 小西 美穂子 島崎 理恵 藤田 和香子 矢後 麻美
若林 優香 武蔵野市男女平等推進センター担当職員
編集協力 栗原 毅
表紙デザイン ふじわら りわ
レイアウト 上田 ジュンコ
印刷 刷 シンソー印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバーリソースセンターのご協力を頂いております

◎綴込み返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は2019年7月発行予定です。

Editors' Notes 編集 * 後記



かつて非行をとがめられた少年少女が言つた言葉は「社会が悪いからだよ」。苦々しく思つたが、今回の取材等で、少年少女が無意識に陥つてしまつたのは「大人の作った社会環境の悪さ」だと思つた。（大久保力）
性教育は笑き詰めれば多様性の受容。性産業は社会を映す鏡。奥深いアーマだと知つた。学生のうちにたっぷり学べるのが心底うれやましい。（小西美穂子）
繁華街に通い、女の子たちと顔見知りになつて、安心できる環境を作つてから話を聞くという構さん。スマホビジネスの生々しい実態とともに、構さんたちの地道な活動について知ることができた。（藤田和香子）
自己肯定感の低さがスマホに入つていつつ衰退してしまつと思っていた。現実、背景を知り、何かできることか大人の女性として考えさせられた。（島崎理恵）
繁華街に通い、「あなたの子たちと顔見知りになつて、安心できる環境を作つてから話を聞く」という構さん。スマホに対して警戒心が薄くなると最近知り、とても怖くなつた。将来スマホを持たせる際は、フィルターに頼るだけでなく、そこから得られる情報の付き合いで、方や、あおさまな危険性をきちんと話し合えるよう、勉強しておかなくてはと思つ。（矢後麻美）
子育て中の今、子供もスマホの関係は心配になることが多い。子どもを尊重し、NPOと言える、意見を言いやすい環境を作っているだろうか。スマホの問題だけではなく人生の核となるのではと思つた。（若林優香）